

授業科目 評価学演習II

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
押 木 利英子		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60（発達障害：20）
【概要・一般目標：G10】 中枢神経系評価学Ⅰで修得した発達障害に対する理学療法評価の応用力を高め、理学療法の領域（発達障害：脳性まひ、ダウン症児など）を想定した検査測定評価の「思考」と「技術」を練り上げる。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 正常・異常運動発達を模倣する。 2. 姿勢反射・各種発達テスト・基本姿勢・動作の観察と分析などを行う 3. 必要な情報や検査測定項目を列挙し、その実施計画を立て、それを実施するまでの評価の流れを模倣する。 4. 学生間で学びあいながら自主的、計画的に共同作業に取り組む。 5. 臨床で行う記録と症例研究の考察を模倣する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	正常・異常運動発達（0～6m）			1	演習（グループ）、担当：押木 利英子
2	正常・異常運動発達（7～12m）			1	演習（グループ）、担当：押木 利英子
3	粗大運動の発達			1	演習（グループ）、担当：押木 利英子
4	姿勢反射テストの手技と実際			2	演習（グループ）、担当：押木 利英子
5	各種発達テストの手技と実際（1）			2	演習（グループ）、担当：押木 利英子
6	各種発達テストの手技と実際（2）			2	演習（グループ）、担当：押木 利英子
7	各種発達テストの手技と実際（3）			2	演習（グループ）、担当：押木 利英子
8	脳性まひ児の運動発達と動作分析			3～5	演習（グループ）、担当：押木 利英子
9	ダウン症児の運動発達と動作分析			3～5	演習（グループ）、担当：押木 利英子
10	小児整形外科疾患の運動発達と動作分析			3～5	演習（グループ）、担当：押木 利英子
【使用図書】		<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格 他> （後日指定）			
教科書 （必ず購入する書籍）					
参考書		ベッドサイド神経の診かた第16版 理学療法評価学 第2版	田崎義昭 他 松澤正	南山堂 金原出版	2004・7,560円 2004・6,510円
その他の資料		プリント			
【評価方法】 出席、小テスト、提出物、実技試験、定期試験 （筆記）、その他			【履修上の留意点】		